

令和6年度
南アルプス動植物環境調査 結果報告書

静岡市 環境局 環境共生課

令和7年12月

目 次

1	環境調査の目的	2
2	調査対象地域	2
3	これまでの調査	2
4	調査概要	3
4-1	調査目的、対象種等及び選定理由	3
4-2	調査内容及び手法	3
4-3	調査地区、時期及び人数	4
4-4	調査実施者	4
5	調査結果	6
5-1	哺乳類《コウモリ類の生息状況の把握》	6
	《哺乳類相の生息状況の把握》	6
5-2	両生類《サンショウウオ類の生息状況の把握》	8
5-3	淡水魚類《ヤマトイワナの生息状況の把握》	8
5-4	植物 《リニア事業による改変地の植物相の把握》	10
6	考察	12

※重要種とは、文化財保護法、種の保存法及び環境省・静岡県版レッドリスト掲載種、国立公園指定植物から市が本調査において重要と位置付けた種を示す。

※指標種とは、上記重要種及びその他の種のうち、「平成 27 年度 南アルプスユネスコエコパーク登録申請地域内動植物調査」にて選定したモニタリング対象種を示す。

※表中、「JR 調査」とあるものは、「中央新幹線（東京都・名古屋市間）環境影響評価書（平成 26 年 8 月）（静岡県）」、「確認調査結果【静岡県】（平成 27 年 6 月）（東海旅客鉄道株式会社）」及び「中央新幹線（東京都・名古屋市間）環境影響評価書（平成 26 年 8 月）（静岡県）」に基づく事後調査報告書（導水路トンネル等に係る調査及び影響検討結果）資料編（平成 29 年 1 月）（東海旅客鉄道株式会社）」の各調査における現地調査で確認された種であることを示す。

※表中の記号は以下のとおり

カテゴリー	基本概念	記号
絶滅	既に絶滅したと考えられる種	EX
野生絶滅	飼育・栽培下でのみ存続している種	EW
絶滅危惧Ⅰ類	絶滅の危機に瀕している種	
ⅠA 類	ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの	CR
ⅠB 類	ⅠA ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの	EN
絶滅危惧Ⅱ類	絶滅の危険が増大している種	VU
準絶滅危惧	存続基盤が脆弱な種	NT
情報不足	評価するだけの情報が不足している種	DD
絶滅のおそれのある地域個体群	地域的に孤立している地域個体群で、絶滅のおそれが高いもの	LP
要注目種	静岡県独自のカテゴリー	
現状不明	現状が不明な種	N-Ⅰ
分布上注目種等	絶滅の危険性は小さいが、分布上注目される種	N-Ⅱ
部会注目種	その他各部会で注目すべきと判断した種	N-Ⅲ

1 環境調査の目的

平成26年に登録された南アルプスユネスコエコパーク（生物圏保存地域）は、登録区域内の自然環境等の状況について10年ごとにユネスコへの報告が求められており、登録地域内で計画されている中央新幹線建設工事による自然環境への影響が懸念されていることから、本業務では、動植物の生息・生育状況調査を実施し、自然環境の変化を把握する。

2 調査対象地域

静岡市葵区田代地内において、東海旅客鉄道株式会社が公表する「中央新幹線（東京都・名古屋市間）環境影響評価準備書【静岡県】」及び『「中央新幹線（東京都・名古屋市間）環境影響評価書【静岡県】平成26年8月」に基づく事後調査報告書』で示された改変の可能性のある範囲のうち、これまでの調査や有識者へのヒアリング結果等を踏まえ、選定した地域とする。

3 これまでの調査

哺乳類については平成26年度から令和5年度において、目視、痕跡調査や、目視が困難なネズミ、モグラ類やカワネズミなどの捕獲調査、定点カメラの設置による自動撮影カメラ調査などを実施したほか、平成31年度から令和5年度まで、カワネズミを対象とした環境DNA分析を実施し、生息状況を把握した。

両生類、魚類、昆虫類などについても個体の特徴、習性などに合わせた調査を実施し、生息状況を把握した。

植物については平成26年度から30年度まで、重要種の確認や植生の調査等を実施し、平成31年度から令和4年度までは東海旅客鉄道株式会社が環境保全措置（移植・播種）を実施した重要種のモニタリング調査に変更した。また、植生については宿舎や工事ヤードなどの改変地周辺をUAVにより調査した。

令和5年度はリニア事業による改変地及び改変が想定される地区周辺を調査した。踏査により、指標種・重要種の分布状況を記録し、UAVにより植生状況を把握した。

4 調査概要

4-1 調査目的、対象種等及び選定理由

調査目的、対象種等及び選定理由は、表4-①のとおりである。

表4-① 調査目的、対象種等及び選定理由

分類群	調査目的	対象種等	選定理由
哺乳類	重要な種の生息状況の把握	コウモリ類	静岡県版レッドデータブックに17種類のコウモリが登録されており、14種類が南アルプス周辺に生息している。そのうち、5種類は県内で南アルプス周辺でのみ記録されており、リニア事業による改変が行われる前に生息状況を把握しておくことが必要であるため。
	リニア事業による改変地の哺乳類相への影響の把握	哺乳類相	リニア事業による改変により、哺乳類相は直接的または間接的な影響を受けるため。
両生類	重要な両性類の生息状況の把握	サンショウウオ類	過去の現地調査において確認された両生類のうち、重要種のハコネサンショウウオは主に皮膚呼吸であり、沢の流量変化等による影響を受けやすいため。
淡水魚類	重要な種の生息状況の把握	ヤマトイワナ	重要種であるヤマトイワナの純系の個体群は大井川源流域に極めて局部的に残る状況であるため。
植物	リニア事業による改変地の植物相への影響の把握	植物相	リニア事業による改変により、植物相・植生は直接的または間接的な影響を受けるため。

4-2 調査内容及び手法

調査内容及び手法は、表4-②のとおりである。

表4-② 調査内容及び手法

分類群	調査内容	調査手法	
哺乳類	哺乳類のうち、コウモリ類の生息状況の把握	捕獲調査	ハートトラップ、カスミ網による捕獲調査を実施し、外観的形質から種の判別を行った。
	リニア事業による改変地及び周辺の哺乳類相の把握	定点での自動撮影調査及び捕獲調査	定点で自動撮影装置を設置し、撮影された情報をもとに哺乳類相を記録した。小型哺乳類についてはトラップによる捕獲調査を実施した。また、他項目の現地調査時に確認したフィールドサイン（FS）の結果も任意調査として実施した。
両生類	両生類のうち、サンショウウオ類の生息状況の把握	環境DNA分析	採水した水試料からDNAを抽出し、データ解析を行い、サンショウウオ類が生息する可能性について調べた。
淡水魚類	イワナ類の生息状況の把握	採捕調査 遺伝子解析	釣りによる採捕調査を実施し、同時に捕獲したイワナ類の鰭サンプルを採取・遺伝子解析により種の同定を行った。また、R5に捕獲したイワナ類の鰭サンプルについても遺伝子解析を行った。
植物	リニア事業による改変地の植物相の把握	踏査、 任意観察	調査対象地区において、踏査により植物相及び指標種・重要種の分布状況の把握を行った。

4-3 調査地区、時期及び人数

調査地区、時期及び人数は、表4-③のとおりである。また、調査位置を図4-①に示す。

表4-③ 調査地区、時期及び人数

分類群	調査内容	調査地区	調査時期	調査人数 (実績)
哺乳類	哺乳類のうち、コウモリ類の生息状況の把握	伝付林道周辺、千石ヤード周辺、燕沢周辺、スリバチ沢	7月～8月	28人日
	リニア事業による改変地及び周辺の哺乳類相の把握	伝付林道周辺、千石ヤード周辺、燕沢周辺、スリバチ沢、イタドリ、二軒小屋周辺	7月～9月	28人日
両生類	両生類のうち、サンショウウオ類の生息状況の把握	車屋沢、大尻沢、下木賊沢	8月	2人日
淡水魚類	イワナ類の生息状況の把握	スリバチ沢、蛇沢	8月	4人日
植物	リニア事業による改変地の植物相の把握	D-1'、D-2、G、J	5月～9月	12人日

4-4 調査実施者

調査実施者は、次のとおりである。

業務名：令和6年度 環境共委第3号 静岡市南アルプス動植物環境調査業務

受託者：株式会社静環検査センター静岡支店

住 所：静岡県静岡市駿河区西脇610-3

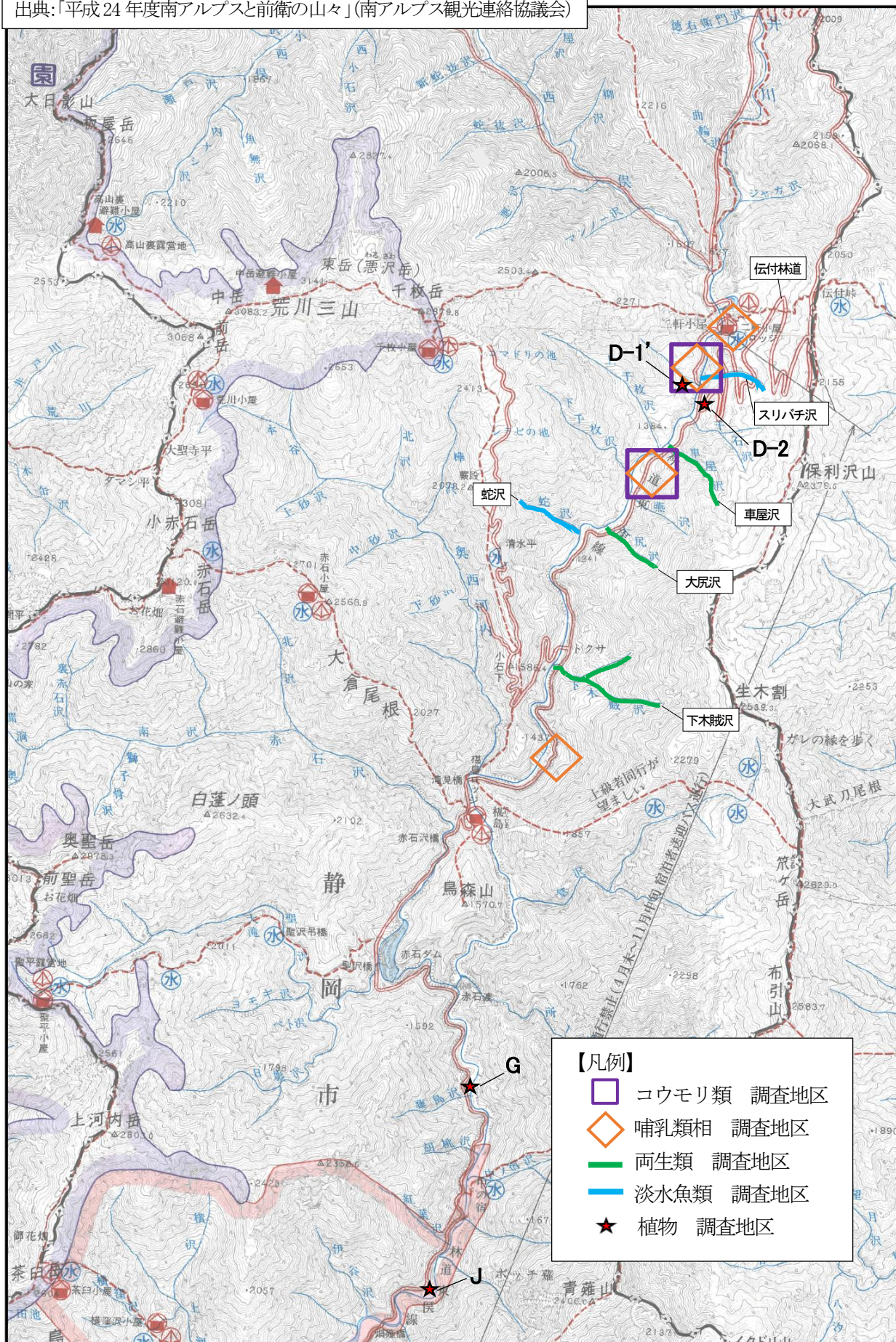


図 4-① 調査位置図

5 調査結果

5-1 哺乳類

《コウモリ類の生息状況の把握》

伝付林道や千石ヤード周辺等の林道9地点でトラップを設置し、捕獲調査を行った。調査の結果、伝付林道の2地点でヒメホオヒゲコウモリが計3個体捕獲された。確認された重要種及び指標種を以下の表5-①に示す。

なお、令和2年度から令和5年度まではコウモリ類に係る調査は実施していない。

表5-① コウモリ類調査において確認した重要種・指標種

No.	目名	科名	種名	選定基準			調査年度											
				①	②	③	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2	R3	R4	R5	R6	
1	翼手	キクガシラコウモリ	コキクガシラコウモリ			NT				●			R 2～R 5 コウモリ類 調査 未実施					
2			キクガシラコウモリ			NT		●	●	●								
3		ヒナコウモリ	テングコウモリ			DD				●								
4			コテングコウモリ			DD	●			●	●							
5			ノレンコウモリ			VU				●								
6			カグヤコウモリ			DD				●								
7			ヒメホオヒゲコウモリ			N-II	●	●	●	●	●	●				●		
8			モモジロコウモリ			NT				●								
9			クロホオヒゲコウモリ		VU	DD				●	●							
10			チチブコウモリ		LP	VU		●										
11			ウサギコウモリ				●	●	●									
12			ニホンウサギコウモリ			DD				●								
13			ヒナコウモリ			DD	●				●							
—	1目	2科	13種	0種	2種	12種	4種	4種	3種	10種	4種	1種	—	—	—	—	1種	

注1) 種の分類、配列、種名は、「世界哺乳類標準和名リスト2021年度版」(日本哺乳類学会、2021年)に原則したがった。

注2) 重要種の選定基準およびカテゴリーの略称・略号は以下のとおりである。

①「静岡県希少野生動植物保護条例」(平成23年 静岡県条例第37号)

指定：指定希少野生動植物、特定：特定希少野生動植物

②「環境省レッドリスト2020」(令和2年 環境省)

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR：絶滅危惧IA類、EN：絶滅危惧IB類、VU：絶滅危惧II類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、

LP：絶滅のおそれのある地域個体群

③「静岡県版 植物レッドリスト 2020」(令和2年 静岡県)

EX：絶滅、CR：絶滅危惧IA類、EN：絶滅危惧IB類、VU：絶滅危惧II類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、LP：絶滅のおそれのある地域個体群、

N-I：現状不明、N-II：分布上注目種等、N-III：部会注目種

《哺乳類相の生息状況の把握》

哺乳類相を対象に伝付林道や千石ヤード周辺の6地点に自動撮影装置を設置し、自動撮影調査を行った。また、ネズミ類やモグラ類の小型哺乳類を対象にトラップを設置し、捕獲調査を行った。

調査の結果、6目11科14種の哺乳類が確認された。自動撮影調査では、3目6科7種の哺乳類が確認された。最も多く確認されたのは、ニホンジカ(106例)であり、次点ではタヌキ(52例)であった。

捕獲調査では、ヤチネズミやアズミトガリネズミ、ヒメヒミズ等、3目5科7種の哺乳類が確認された。

任意調査(FS)では、タヌキ、ツキノワグマ、ニホンジカの2目3科3種の哺乳類が確認された。

また、外来種の確認状況は、自動撮影調査でハクビシン(13例)が確認された。

本年度確認された重要種・指標種を次頁表5-②に示す。

なお、令和2年度から令和5年度までの哺乳類に係る調査はカワネズミを対象とした環境DNA調査のみが行われている。

表5－② 哺乳類相の生息状況調査において確認した重要種・指標種

No.	目名	科名	種名	選定基準			調査年度													
				①	②	③	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2	R3	R4	R5	R6			
1	霊長	オナガザル	ニホンザル				●	●	●	●	●							●		
2	齧歯	リス	ニホンリス			N-III	●	●		●	●	●								
3			ニホンモモンガ			DD		●												
4			キヌゲネズミ	ヤチネズミ				●	●	●										●
5			ネズミ	ヒメネズミ				●	●	●										●
6				アカネズミ				●	●	●										●
7	兎形	ウサギ	ニホンノウサギ				●			●										
8	真無盲腸	トガリネズミ	カワネズミ			NT			●		●								●	
9			アズミトガリネズミ		NT	NT										●				
10			シントウトガリネズミ						●							R 2～R 5 カワネズミ に係る 環境DNA 調査のみ 実施				
ー			トガリネズミ属の一種				●	●												
11		モグラ	ミズラモグラ		NT	DD	●													
12				ヒメヒミズ				●	●	●							●			
13				ヒミズ					●								●			
14	翼手	キクガシラコウモリ	コキクガシラコウモリ			NT				●										
15				キクガシラコウモリ			NT		●	●	●									
16		ヒナコウモリ	テングコウモリ			DD				●										
17				コテングコウモリ			DD	●			●	●								
18				ノレンコウモリ			VU				●									
19				カグヤコウモリ			DD				●									
20				ヒメホオヒゲコウモリ			N-II	●	●	●	●	●	●							
21				モモジロコウモリ			NT				●									
22				クロホオヒゲコウモリ		VU	DD				●	●								
23				チチブコウモリ		LP	VU		●											
24				ウサギコウモリ				●	●	●										
25				ニホンウサギコウモリ			DD				●									
26				ヒナコウモリ			DD	●				●								
27	食肉	ジャコウネコ	ハクビシン				●	●	●		●				●					
28		イヌ	タヌキ				●	●	●	●	●				●					
29				アカギツネ				●	●	●	●	●			●					
30		クマ	ツキノワグマ				●	●	●	●	●				●					
31		イタチ	ニホンテン				●	●		●	●				●					
32				アナグマ				●	●			●								
33	偶蹄	イノシシ	イノシシ				●	●	●	●	●	●								
34		シカ	ニホンジカ				●	●	●	●	●	●			●					
35		ウシ	ニホンカモシカ				●	●		●										
ー	7目	16科	35種	0種	4種	17種	22種	22種	16種	21種	15種	4種	0種	1種	1種	1種	14種			

注1) 種の分類、配列、種名は、「世界哺乳類標準和名リスト2021年度版」(日本哺乳類学会、2021年)に原則したがった。

注2) 重要種の選定基準およびカテゴリーの略称・略号は以下のとおりである。

①「静岡県希少野生動植物保護条例」(平成23年 静岡県条例第37号)

指定：指定希少野生動植物、特定：特定希少野生動植物

②「環境省レッドリスト2020」(令和2年 環境省)

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR：絶滅危惧IA類、EN：絶滅危惧IB類、VU：絶滅危惧II類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、

LP：絶滅のおそれのある地域個体群

③「静岡県版 植物レッドリスト 2020」(令和2年 静岡県)

EX：絶滅、CR：絶滅危惧IA類、EN：絶滅危惧IB類、VU：絶滅危惧II類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、LP：絶滅のおそれのある地域個体群、

N-I：現状不明、N-II：分布上注目種等、N-III：部会注目種

5-2 両生類

《サンショウウオ類の生息状況の把握》

調査地区周辺の小溪流3か所でサンショウウオ類を対象とした環境DNA調査を実施した結果、ヒガシヒダサンショウウオのDNAを1か所で、ハコネサンショウウオのDNAを2か所で検知した。

表5-③ 調査対象種及び確認した指標種

科名	種名	選定基準			JR 調査	調査年度										
		①	②	③		H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2	R3	R4	R5	R6
サンショウウオ	ヒガシヒダサンショウウオ	－	NT	VU	○	○	○	○	○	－	○	○	－	－	○	○
	アカイシサンショウウオ	－	EN	CR	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	ハコネサンショウウオ	－	－	VU	○	○	○	－	○	○	○	○	○	○	○	○
1科	3種	0種	2種	3種	2種	2種	2種	2種	1種	1種	2種	2種	1種	1種	2種	2種

注1) 重要種の選定基準およびカテゴリーの略称・略号は以下のとおりである。

①「静岡県希少野生動植物保護条例」(平成23年 静岡県条例第37号)

指定：指定希少野生動植物、特定：特定希少野生動植物

②「環境省レッドリスト2020」(令和2年/環境省)

EX：絶滅 EW：野生絶滅 CR：絶滅危惧IA類 EN：絶滅危惧IB類 VU：絶滅危惧II類

NT：準絶滅危惧 DD：情報不足 LP：絶滅のおそれのある地域個体群

③「静岡県版レッドリスト2020」(令和2年/静岡県)

EX：絶滅 EW：野生絶滅 CR：絶滅危惧IA類 EN：絶滅危惧IB類 VU：絶滅危惧II類

NT：準絶滅危惧 DD：情報不足 LP：絶滅のおそれのある地域個体群

N-I：要注目種(現状不明) N-II：要注目種(分布上注目種等) N-III：要注目種(部会注目種)

注2) JR調査 東海旅客鉄道株式会社が公表する調査結果(詳細は1頁参照)

5-3 淡水魚類

《ヤマトイワナの生息状況の把握》

主にヤマトイワナを対象として、大井川の支川であるスリバチ沢及び蛇沢において釣りによる捕獲調査を実施し、蛇沢において3個体を捕獲した(スリバチ沢では捕獲個体なし)。捕獲した個体については、ヤマトイワナ及びニッコウイワナとの交雑個体に区分した。また、令和5年度に採捕したイワナ類から採取した鰭サンプルと、令和6年度調査時に採取した鰭サンプルについて、遺伝子解析による区分を行った。

(外見による区分)

外観的形質から型の判別を実施し、ヤマトイワナ的な特徴をもつものを「Y的」、ニッコウイワナの特徴をもつものを「N的」、ヤマトイワナとニッコウイワナの中間的特徴をもつものを「中間的」と3区分にまとめた。判別の結果、Y的個体が33.3%(1個体)、中間的個体が66.7%(2個体)、N的個体は0.0%であった。また、今回の調査ではイワナ類以外の魚類は確認されなかった。

(遺伝子解析による区分)

今回捕獲した3個体の鰭サンプルと併せて、令和5年度調査の際に奥西河内及びその支川において捕獲し、保存した23個体の鰭サンプルについて、遺伝子解析による区分を行った。

解析の結果、令和5年度の鰭サンプル全23検体がヤマトイワナと判定された。また、令和6年度の鰭サンプル全3検体についてもヤマトイワナと判定された。

遺伝子解析を実施した河川を次頁図5-①に示す。

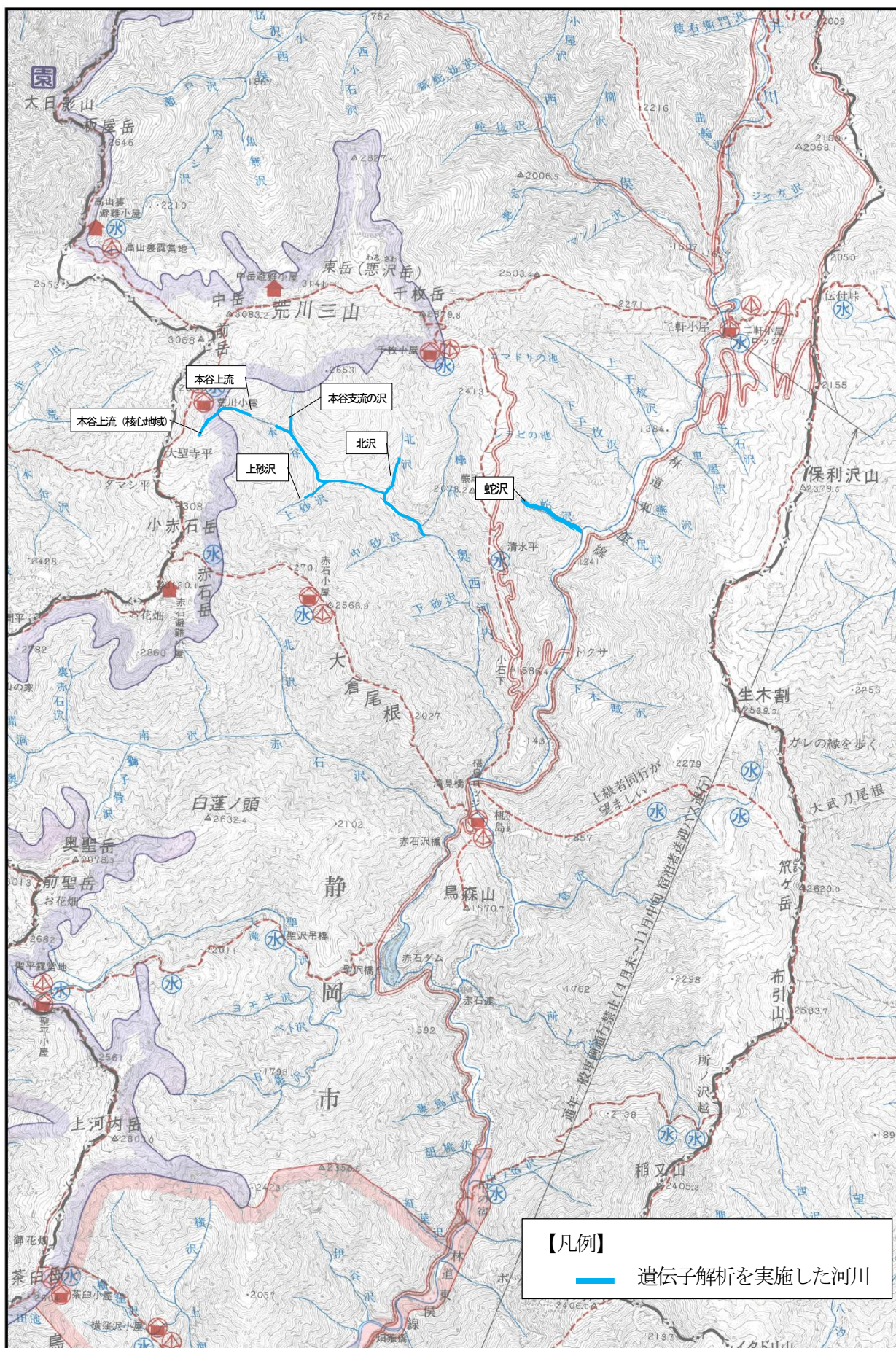


図5-① 遺伝子解析を実施した河川の位置図

5-4 植物

《リニア事業による改変地の植物相の把握》

踏査により、リニア事業による改変地及び改変が想定される地区周辺の植物相や、指標種・重要種の分布状況を記録した。

(植物相の状況)

調査はD-1'、D-2地区及びG、J地区で行い、確認された維管束植物は4地区合わせて46目98科251属384種類（亜種、変種及び品種含む）であった。そのうち、指標種・重要種は7目8科10種であった。本年度確認された指標種・重要種を次頁表5-④に示す。

表5-④ 植物相調査により確認された指標種・重要種

目と名	科和名	種和名	選定基準			調査年度								令和6年度			
			①	②	③	リニア 現地	リニア 事後	H26	H27	H28	H29	H30	R5	D-1'	D-2	G	J
ヒカゲノカズラ目	ヒカゲノカズラ科	アスヒカズラ			N-III	○		A									
ハナヤスリ目	ハナヤスリ科	ヒメハナワラビ		VU	VU							D					
シキミ目	マツブサ科	チョウセンゴミシ			N-I	○											
コショウ目	ウマノスズクサ科	ウスバサイシン			N-III	○	○		E, F			D, E					
オモダカ目	サトイモ科	ヒトツバテンナンショウ			VU			D, E, F, G	D, E, F	D, E	D	D, E	E', K				
ユリ目	ユリ科	オオウバユリ			N-III				D	D		D					
クサスギカズラ目	ラン科	ホテイラン	指定	EN	CR	○					D						
		ギンラン			N-III								E'				
		ユウシュンラン		VU	EN	○			G, I							○	
		イチヨウラン			VU	○			D	D	D	D					
		トラキチラン		EN	EN	○							E'				
		アオキラン		CR	N-III	○	○		D				D, E	E'			
		クロクモキリソウ		EN	EN			D	D, E	D, E	D, E	C, D [△] , E	E'				
		クモキリソウ属		EN	EN								K			○	
		ホザキイチヨウラン			N-III	○			D	D [△]	D	C, D [△]	E'		○		
	アヤメ科	ヒメシャガ		NT	EN								K				
	ヒガンバナ科	ヒメニラ			N-III	○	○	E	D, E, G	E	D, E						
イネ目	カヤツリグサ科	ヒカゲシラスゲ			N-III	○											
	イネ科	キダチノネズミガヤ			N-I	○											
キンボウゲ目	ケシ科	ナガミノツルケマン		NT	EN	○	○	F, H	F, H			E	E'				
	メギ科	ヒロハヘビノボラズ			EN	○		C, D	E	E	D, E, J	C, D, E	E'				
ユキノシタ目	ボタン科	ヤマシャクヤク		NT	NT	○	○	D, E, F, H	D, E, G, H	D	D, E	D [△]	E'				○
	スグリ科	ヤシャビシャク		NT	VU	○	○										
バラ目	バラ科	サナギイチゴ		VU		○	○	C, D, E, H	D, E, H, I	D, E [△]	E	C, D, E	E', K	○	○		
ウリ目	ウリ科	ミヤマニガウリ			N-III	○	○	D	D	D	D [△]	D [△]		○	○		
キントラノオ目	スミレ科	ミヤマスミレ			EN						D, E	C, D, E	E'				
フトモモ目	アカバナ科	トダイアカバナ		VU	VU	○		E	D, E	D, E		C, D, E	E', K	○	○		○
アオイ目	ジンチョウゲ科	チョウセンナニワズ		VU	VU	○	○	C, D	D	D [△]	D	C, D	E'				
ナデシコ目	ナデシコ科	ヒゲネワチガイソウ			N-III			H	H								
ツツジ目	サクラソウ科	シナノコザクラ		NT	VU	○											
リンドウ目	リンドウ科	ホソバナツルリンドウ		VU	VU	○	○	G	H								
	キョウチクトウ科	クサタチバナ		NT	EN	○											
ナス目	ナス科	アオホオズキ		VU	NT							D					
シソ目	シソ科	タチキランソウ		NT	NT				G					○		○	○
キク目	キキョウ科	シデシヤジン			N-III												○
	キク科	トダイハハコ		VU	VU	○		C				C					
		ホソバムカシヨモギ		VU									C				
		カワラニガナ		NT	NT	○	○	G, I	E, H	E	E	E					○
セリ目	セリ科	ホソバハナウド		CR	VU				D	D	D						
マツムシソウ目	ガマズミ科	レンブクソウ			N-III	○	○	E	D, E	E	E	D	E'				
	スイカズラ科	ナベナ			N-III	○		G, H	H								
23 目	31 科	40 種	1	22	38	27	12	17(10)	23(16)	16(12)	14(11)	21(17)	16(0)	4	4	4	4

注1) 種の分類、配列、和名及び学名は、「河川水辺の国勢調査のための生物リスト」（河川環境データベースWEBサイト、2022年11月7日更新）に原則したがった。

注2) 重要種の選定基準およびカテゴリーの略称・略号は以下のとおりである。

① 「静岡県希少野生動植物保護条例」（平成23年 静岡県条例第37号）

指定：指定希少野生動植物、特定：特定希少野生動植物

② 「環境省レッドリスト2020」（令和2年 環境省）

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR：絶滅危惧IA類、EN：絶滅危惧IB類、VU：絶滅危惧II類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、LP：絶滅のおそれのある地域個体群

③ 「静岡県版 植物レッドリスト 2020」（令和2年 静岡県）

EX：絶滅、CR：絶滅危惧IA類、EN：絶滅危惧IB類、VU：絶滅危惧II類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、LP：絶滅のおそれのある地域個体群、N-I：現状不明、

N-II：分布上注目種等、N-III：部会注目種

注3) クモキリソウ属（*Liparis* sp.）は、クロクモキリソウの可能性が否定できないことから重要種扱いとした。そのため、クモキリソウ属は重要種の計数に含めない。

注4) 表中の過年度の黄色塗りつぶしは地区D、G、Jでの確認種、橙色塗りつぶしは今年度調査での確認種、各調査年度の合計種数の括弧内の数字は地区D、G、Jでの出現種数を表す。

6 考察

本年度現地調査では、15種の指標種・重要種を確認した。その分類群ごとの確認種は、哺乳類2種（アズミトガリネズミ、ヒメホオヒゲコウモリ）、両生類2種（ハコネサンショウウオ、ヒガシヒダサンショウウオ）、淡水魚類1種（ヤマトイワナ）、植物（ユウシュンラン他）10種であった。

哺乳類については、今年度は重要種が2種確認されており、コウモリ類の捕獲調査でヒメホオヒゲコウモリが、哺乳類相の生息状況調査でアズミトガリネズミが確認された。ヒメホオヒゲコウモリについては、捕獲調査を行っていない令和2年度から令和5年度の調査を除き、平成26年度の調査開始年から毎年生息が確認されている。また、広範囲で確認されていることから、中央新幹線建設工事による自然環境への影響を把握するための指標種として、今後も継続して生息範囲に注目していきたい。

両生類について、今年度は重要種3種のうちヒガシヒダサンショウウオとハコネサンショウウオを確認した。過年度の調査結果から、ハコネサンショウウオは百間洞沢以北、ヒガシヒダサンショウウオは上千枚沢上流の沢以南で見つかっており、南アルプスの静岡市域において、ハコネサンショウウオの方がヒガシヒダサンショウウオよりも北部（もしくは高標高部）に生息するものと考えられる。

また、本調査においてアカシサンショウウオは過去に一度も確認されておらず、今後の調査では南アルプスの生態系という観点から、調査地点や調査時期を変えるなどしながらアカシサンショウウオの生息調査を継続していきたい。

淡水魚類について、外観的形質による判別ではヤマトイワナの特徴を持つイワナ類を確認したほか、ヤマトイワナとニッコウイワナの特徴を中間的に持つ個体を3個体確認した。また、確認したこれらのイワナ類を令和5年度に採取した23個体分の鰭サンプルと併せて、マイクロサテライトDNAマーカーを用いたアレル解析及び帰属性解析を行い、26検体全てがヤマトイワナと判定された。しかし、現在の解析手法のみで、純系のヤマトイワナであると判定するには不十分であり、異なった解析手法を追加実施する必要があると考えられる。また、これまでの解析結果から南アルプスにおけるヤマトイワナの生息域と推察されるエリアをより詳細に調査することで、検体数を増やし、複数の解析方法を用いた結果から総合的に判定を行うことで、改めてヤマトイワナの分布域を解明していくことが必要であると考えられる。











植物相調査については、踏査により、リニア事業による改変地及び改変が想定される地区周辺の植物相や、指標種・重要種の分布状況を記録した。本年度の調査では重要種・指標種を10種確認しており、J地区では過年度調査では一度も確認されていない重要種であるシデシヤジンが確認された。過年度のJ地区での重要種の記録は、平成29年度のヒロハヘビノボラズ1種のみであったため、大規模な改変地であるJ地区において、過去どの調査地区においても発見されていなかった重要種が発見されたことは興味深い。

本調査地域は、その年の気象条件により動植物の生息・生育状況が変動したり、山間地域特有の気象状況等により適切な時期に現地調査が実施できない場合もあることから、今後も継続した調査を行い、各年度の指標種・重要種等の情報を蓄積していくことで自然環境の変化を捉えていきたい。

表6-① 指標種・重要種の確認状況

分類群	R6確認種数
哺乳類	2
両生類	2
淡水魚類	1
植物（植物相）	10
計	15種

写真6－① 令和6年度調査で確認された指標種・重要種

 <p>ヒメホオヒゲコウモリ (環境省：－ / 県：分布上注目種等 (N-II))</p>	 <p>アズミトガリネズミ (環境省：準絶滅危惧 (NT) / 県：準絶滅危惧 (NT))</p>
 <p>ハコネサンショウウオ (幼生) (環境省：－ / 県：絶滅危惧 II 類 (VU))</p>	 <p>ヒガシヒダサンショウウオ (環境省：準絶滅危惧 (NT) / 県：絶滅危惧 II 類 (VU))</p>
 <p>ユウシュラン (環境省：絶滅危惧 II 類 (VU) / 県：絶滅危惧 IB 類 (EN))</p>	 <p>クモキリソウ属 (環境省：絶滅危惧 IB 類 (EN) / 県：絶滅危惧 IB 類 (EN))</p>
 <p>ホザキイチョウラン (環境省：－ / 県：部会注目種 (N-III))</p>	 <p>ヤマシャクヤク (環境省：準絶滅危惧 (NT) / 県：準絶滅危惧 (NT))</p>
 <p>サナギイチゴ (環境省：絶滅危惧 II 類 (VU) / 県：－)</p>	 <p>ミヤマニガウリ (環境省：－ / 県：部会注目種 (N-III))</p>



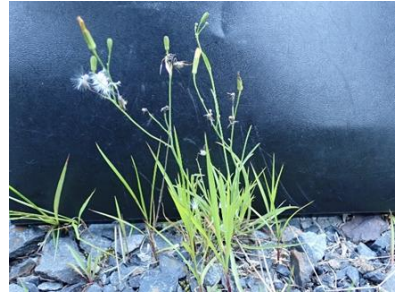
トダイアカバナ
(環境省：絶滅危惧 II 類 (VU) / 県：絶滅危惧 II 類 (VU))



タチキランソウ
(環境省：準絶滅危惧 (NT) / 県：準絶滅危惧 (NT))



シデシヤジン
(環境省：-/ 県：部会注目種 (N-III))



カワラニガナ
(環境省：準絶滅危惧 (NT) / 県：準絶滅危惧 (NT))



イワナ類 (「Y 的」 個体)

《参考》調査地区名と位置図

